

未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト

平成26年度実施報告書

埼玉県立浦和高等学校

1 学校の現状と課題

本校では「尚文昌武」の理念のもと、生徒が学習、学校行事、部活動等に全力を傾注した高校生活を送っている。結果として、3年間で人間的に大きく成長を遂げ、生徒に第一志望はゆずらないとの強い信念を持たせ、全職員が戦力を挙げて生徒一人ひとりの進路実現に取り組むことにより、多くの生徒が第一志望への進路実現を果たしている。また、課題としては、これまでも大学、研究機関、海外姉妹校との連携を進めてきたところであるが、生徒の忙しさなどもあり、これらと連携した多様な学習機会を十分に生かし切れていない面がある。

2 本校における26年度までの取組（事業指定の2年間の成果と課題についての概要）

平成25年度の本事業を取り組む過程で実態調査及び本校が目指すリーダー像を調査するため本校のリーダー教育についてのアンケートを全教職員対象に実施した。そのアンケートの中で、「リーダー教育という視点で本校教育に足りないと感じている点は何か？」という設問の回答として

- ・自分たちと異なる環境・境遇にいる人たちとの交流を深めること
- ・価値観の多様性に気付かせるような活動
- ・他者の気持ちを理解する共感力を養う教育

などがあった。このアンケート結果に示されているとおり、多様で異質な価値観を有する他者を理解する柔軟性、協調性、共感力を育成することは課題であることが見えてきた。

また、本校は今年度、文部科学省から「スーパーグローバルハイスクール」に指定され「新しい価値を創造し、世界のどこかを支えるグローバルリーダーの育成」をテーマに、幅広い教養と深い洞察力を持った知徳体のバランスのとれたリーダーの育成を行っている。これまで連携してきた大学、研究機関、海外姉妹校との連携を強化・充実しながら、国内外の大学等に積極的に飛び出し、多様で異質な価値観を持つ他者と切磋琢磨し、課題であった他者への共感力を磨き、新しい価値を創造できる真のグローバルリーダーの育成していく体制を構築する第一歩を踏み出した。成果としては、「リーダーとして社会に貢献しようという意識が向上した」生徒の割合が昨年度の73.6%から82.9%に大きく増加した。

3 本年度（H26年度）の実践

1) リーダー育成、学力向上に向け、外部人材を活用した講義・講演等の実践につ

いて

① 進路講演会

ア 講義・講演等のねらい

毎年秋に「進路講演会」と題し、第一線でご活躍されている著名人を招いての講演会をおこなっている。隔年で文系理系分野の先生方にご講演をお願いしている。高校生という、多様な可能性を秘め自我を確立していく時期に、一流の先生方の専門的な話、ものの捉え方、考え方、その人柄等に直接触れることは、生徒の進路に様々な示唆を与えるはずである。今年度は、10月21日に順天堂大学医学部附属順天堂医院副院長の天野篤先生にご講演をいただいた。

イ 講義・講演等の概要

講演題 「浦高生なら熱く生きよう」

- ・ 浦高生はどうあるべきか、医師はどのようにあるべきか。
- ・ 大学時代から現在に至るまでの苦労話、医師という仕事への向き合い方
- ・ 受験前の心構え、大学に入った後の心構えなどを浦和高校OBとして熱く語っていただいた。

ウ 生徒の様子

OBの天野先生から頂く言葉は生徒にも大きく響いた様子であり、講演後も生徒からの質問が絶えず、時間ぎりぎりまでの質疑応答となった。

② 麗和セミナー

ア 講義・講演等のねらい

「麗和セミナー」は、各分野の第一線で活躍する卒業生を招いて在校生の希望者にじっくりと話をしていただく機会である。毎年4～5回程度行われており、先輩の話を聞き、疑問をぶつける非常に知的な会となっている。まさに、生徒の「志」を育てる貴重な機会となっている。

イ 講義・講演等の概要

- 第1回（5月26日）バリトン歌手 富田千種 氏
「海外へ飛び出した声楽家」
- 第2回（6月25日）理化学研究所脳科学総合研究センター
シニア・チームリーダー 上口裕之 氏
「脳外科と脳科学」
- 第3回（9月29日）Jリーグチェマン 村井 満 氏
「心の鐘を聞く」
- 第4回（10月27日）政府税制調査会会長 中里 実 氏
「需要の高い人材の条件」
- 第5回（11月26日）高エネルギー加速器研究機構
博士研究員 風間慎吾 氏
「宇宙の暗黒物質を追い求めて」

ウ 生徒の様子（講演後の質疑）

- ・ どの回も多くの生徒たちからの質問が寄せられ、それぞれの話題や講師の方たちからのメッセージに対する関心の高さが伺われた。

3) 先進校視察について

ア 視察の概要

今年度は、1月末から2月上旬に次の2校への視察をおこなった。

- ・ 東京都立両国高等学校
- ・ 京都市立堀川高等学校

両校からは「教えない授業」「アクティブラーニング」「国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育」などの先進的な取り組みについて具体的にご教授いただいた。今後の本校の教育活動改善に向けての貴重な視察となった。

イ 報告会等の概要

2校の視察を受けて、進路指導部会及び各年次会で情報を共有したのち、2月の職員会議で進路指導部より報告がおこなわれた。報告は報告資料をもとに視察校別に訪問者が直接報告をおこない、全職員での情報共有を図った。

4) 学校において3年間を見据えた組織的な進路指導体制を構築する取組について

本校では平成12年度から取り組んできた「新世紀構想」による様々な模索を経て実践の定着と、平成22年度から平成24年度までの「進学指導重点推進校」の研究指定におけるそれぞれの取組の現状確認により、戦略的な進路指導体制の構築を図ってきた。そして、平成23年度に確認した「次の10年に向けて」の方向性（『「自走する集団づくり」をとおして、「尚文昌武の理念のもと、時代の求めるリーダーの育成」を目指し続ける。』）を実現すべく、改善を図るべく取り組んでいるところである。そのための、校内体制の概要は、次のとおりである。

- ・ 職員間の認識の共有化「進路指導」の定義の確認
- ・ 職員間の情報共有・共通理解「進路指導研修会」（5月）の開催
- ・ 年次団による3年間を見通した指導の改善の取り組み
- ・ 教科による3年間を見通した指導の改善の取り組み

5) その他

① 高大連携ボーイングプログラム

ア 概要

このプログラムは、東京大学がボーイング社の世界的に展開する教育プログラムに参加して、「世界の将来を担うべき優れた科学者・エンジニア」を育成する事業として共同で実施するものである。その中の高大連携プログラムとして本校との連携講座が行われて2年目になる。

第3回は7月23日に浦和第一女子高校にて、東京大学大学院工学系研究科に学ぶ留学生と日本文化についての英語によるプレゼンテーションを含めたポスターセッションを行い、異文化理解を深めた。事前研修として同研究科、国際工学教育推進機構の森村久美子准教授による講座を受講し英語によるプレゼンテーションスキルを養成した。

イ 生徒の様子

参加した生徒は、留学生に対して英語でプレゼンテーションを行うのに最初は、多少緊張しているようであったが、徐々に慣れて楽しそうな表情になっていった。英語

を使用しての異文化理解の大切さが理解できたと感じる。

第4回は3月30日に情報理工学系研究科電子情報学専攻および工学系研究科システム創生学専攻の各研究室のご指導により、次のようなスケジュールで行われた。

- ・ 講義「情報工学の概要」「移動データを使ったデータ分析」
- ・ 実習①浦和第一女子高校のGPSデータを使ったデータマイニング体験
- ・ 実習②浦和高校・浦和第一女子高校のGPSデータを使ったデータマイニング
- ・ 実習②を踏まえたプレゼンテーションコンテスト

イ 生徒の様子

浦和第一女子高校の生徒を交えたグループワークが中心で進められ、各校から持ち寄ったGPSデータが素材だったこともあり、生徒同士による活発なやり取りがなされ、どのグループも最後は短時間ながら非常に充実したプレゼンテーションを行うことができた。なおかつ、情報工学と実社会との繋がりを体験的に学ぶことができた。

② 東大見学会

ア 概要

このプログラムは、これから進学するであろう大学というところの環境や雰囲気を感じ、将来の進路選択の一助となっているとともに、研究の現場で今話題となっていることや高校の勉強が大学での研究にどのようにつながっていくのかなどを知る貴重な機会となっている。今年は、1・2年次生対象で9月17・18日、1年次生のみ対象で11月14日にそれぞれ実施された。

イ 生徒の様子（感想）

- ・ 構内を案内していただき、説明を受けて、なぜ東大がなぜ日本のトップの大学とされているかを具体的に知ることができた。
- ・ 今回の見学会で東大の歴史と雰囲気、教育の素晴らしさを実感し東大に行きたいという気持ちが本当に強くなった。
- ・ 案内していただいた研究室は、自分が憧れている夢の場所だった。どのOBも高校時代は、勉強だけでなく、部活動も頑張っていたをおっしゃっていたので、自分も頑張りたい。
- ・ 私は先輩方のプレゼンテーション力に驚いた。勉強だけでなく、自分を表現する力も養わなければならないと感じた。

4 参考資料

なし